

三 松 禅 寺
平成 30 年 7 月
第 70 号

檀家の皆様
ご寄稿を
お願いします

一切苦真実不虛／般若心経 苦心して真実を生きるとは。皆川大真 二千五百年前のお釈迦様の教えから学ぶ。

この世に三つの誤った見方がある。もしこれらの見方に従ってゆくと、この世のすべてのことが否定される事になる。

一つには、ある人は、人間がこの世で経験するどの様な事も、全て運命であると主張する。

二つには、ある人は、それはすべて神のみ業であるという。

三つには、ある人は、すべて因も縁も無いものであるという。

もしも、すべてが、運命によって定まっているならば、この世においては、良いことをするのも、悪いことをするのも、みな運命で

あり、幸・不幸もすべて運命であり、他には何も存在しない事になる。

したがって人々に、これはしなければならぬ、これはしてはならないという、希望も努力もなくなり、世の中の進歩も改良もないことになる。次に、神のみ業であるという説も、因も縁も無いという説も、同じく非難が出て、悪を離れ、善をなそうという意志も努力も意味もすべて無くなってしまふ。

どんなことも全ては、縁「条件」によって生じ(不生)

縁「条件」によって滅びる(不滅)のである。

仏教における信仰(さとりの進み方)

第一段階、自分の現実の苦悩を除く為の信仰

第二段階、自分の心を安定する生活態度の調整・主観の改善と客観性の向上。

第三段階、自己の救済、自己の完成は眼中になく、衆生救済の為に進んで苦界に向かう(道心・願心の養成・慈悲救済)

自未得度先度他の心・願わくはこの功德を以て普く一切に及ぼし、我等と衆生と皆共に仏道を成ぜんことを。

では祖師の言葉から順を追ってみましょう。

① 仏道(真理)を習うというは自己(身心)を習うなり。 道元禪師

憂い・悲しみ・苦しみ・悶えは人びとに自己中心の執着があるから起こる。この高ぶり・富や名誉利欲・悦楽・自分自身に執着し、悩みが生まれる。

初めからこの世界には色々な災いがあり、老い病み死を避ける事が出来ないから悲しみが生まれる。それらもつきつめてみれば、執着があるから苦しみとなる。

しかし執着が無くなれば苦悩は跡形もなく消え失せる。この執着を押し詰めてみると、人々の心に無明と貪愛とが見いだされる。

無明とは日々移り変わる現実のすがたに眼が開かず、因果の道理に暗いこと。

貪愛とは得る事の出来ないものを貪って、執着し愛着することである。

すべての人はこの執着の愚かさのために正しく見る事できなくなり、自我にとらわれた行動をし、その結果、迷いの身を生ずることになる。

② 自己を習うというは自己を忘るる(認める)なり。 道元禪師

この身は父母を縁として生まれ食物によって維持され、またこの心も経験と知識によって育ったものである。だから、この身も、この心も、縁によって成り立ち、縁によって変わるのがある。網の目が、互いにつながりあって網を作っているように、すべてのものはつながりあってできている。

網の目はほかの網の目と関わりあって、一つの網の目といわれる。網の目は、それぞれが、他の網の目が成り立つために、役立っている。だからどんな問題も正解も、縁によって移り変わり常に止まらない、ということ是不変の道理である。

釈尊

③ 自己を忘るる(不生不滅を認める)というは方法に証せらるるなり。 道元禪師

心はたくみな絵師の様な様々な世界を描き出す。世の中で心のはたらきによ

て作り出されないものは何一つない。心の様に仏(真理)もそうであり、仏の様に人々もそうである。だからすべてのものを描き出すということにおいて、心と仏と人々と(我と山河大地と同時成道)、この三つのものに区別はない。しかしこの心が濁ると、その道は平らでなくなり、倒れてしまふ。また良い心が清らかであるならば、その道は平らになり、安らかになる。

身と心との清らかさを楽しむ生活は、(身心脱落)悪魔の網を破って仏の大地を歩む。心の静かな人の行動は、安らかさを他人にも与えて、昨日よりも今日、只今より次へと、ますます努めて夜も昼も心を修めていくであろう。(積功累徳)

自己をはこびて方法を修証するを、迷とす

方法すすみて自己を修証するは、さとりなり

国宝 「正法眼蔵」

道元禪師

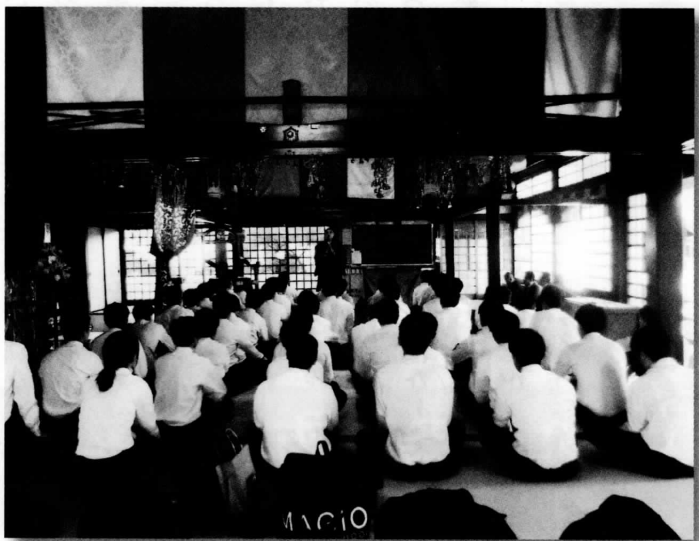
道元禪師

道元禪師

道元禪師

道元禪師





花は無心に蝶を招く(空の心)老若男女坐禅のようす。



6月6日 堺市立美木多中学校2年生の校外学習から

万葉松本版

松本国宝特集

平成30年6月6日
美木多中学校
校外学習
にて

人生に一度はやらなきゃ損!!

坐禅

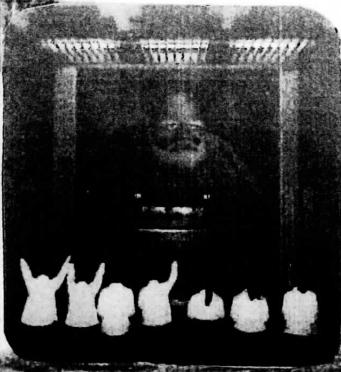
禅の始まりはお釈迦さま。紀元前五世頃に古代インドで坐禅により、悟りを得た。日本には平安時代末期に栄西により、伝わった。一九五〇年代後半からアメリカでブームとなった、「ZEN」

坐禅に意味や目的は求めない!?

坐禅にはそれだけの思いや、はからいは持ち込まず、坐ることだけに徹する。「〇のために〇〇する」という思考からはなれ、「ただ〇〇する」こと。このことは、この瞬間を丁寧に生きることに他ならない。禅の教えは窮屈ではない。欲望やとらわれを解放し、心を調えて坐ることの結果として執着しない状態へと導いてくれる。

三松寺に入るとまず木のいい香りが鼻の中に飛びこんでくる。次に畳のひいてある大きい広間に出る。そこで坊主さんが、坐禅のしかた、合掌のしかたなどを教えてくれた。合掌には、「感謝」「幸せを祈る」という意味があるそうだ。さらに、スポーツに関係する話もしてくれられた。試合中に、未来のこと、「ここで打てば、優勝」などを考えると上半身に力が入ってしまふ本来の自分のプレーができなくなる。確かに試合中に、「ここで打つたら逆点でできる」と思ったときは打たないでいい。しかし、打たなくても死なへん。余剰があるときはなせか打つ。だから僕は三松寺の坊主さんから教えてもらったことを大切に、スポーツなどにも生かしていきたいと思

松本国宝に認定!!



大東大寺から今日あなたも坐禅マスター!?



2018.06.0



2018.06.0

奈良の鹿 松本国宝

し、かりしてゐるね。奈良公園といえは鹿。前後左右どこを見ても鹿のオンパレードだ。なんど奈良の鹿は「チワワ」スーとおじぎをするとおじぎかえいをするのか調べてみると、意外な答えがでてきた。おじぎの回数が多いほど鹿せんべいをもらえる回数が多いのだ。おじぎするのがせんべいをもらうの間に有利な行動だという。間でも練習された結果だったのだ。



編集後記

今回の校外学習は不運なことに雨だ。しかし、僕はこの雨を不運とは思わず、幸運だと考えた。それはなぜか。雨が傘に「ポツポツ」とおちる落ちついた音を聞きながら、ゆっくりと古都奈良のすばらしさを味わうことができた。さらに今回の校外学習で奈良の人の優しさを学ぶことができた。西ノ京駅への行き方を町の人が優しく教えてくれた。いいね、人もすべてが優しい奈良だ。

般若の力とは

【般若心経】に

「般若波羅蜜多是是れ、①大神呪なり、②大明呪なり、③無上呪なり、④無等呪なり。」と、不思議な力を四つ示しています。

①「大」とは、微生物から宇宙という広大な空間に行き渡っている真理。

「神」とは、不可思議という意味。

「呪」というのは「マントラ」の翻訳で、日本では「まじない」と発音します。「仏のお言葉はたった一字でも言い尽くせない深い意味を持っているよ」という意味です。

ちなみに、「陀羅尼・ダラニ」という言葉も同じ様な意味で「総持」と翻訳し「総摂任持・無量の功德を持っている。」意味です。

まず、「神呪」は「神通妙用・神通不可思議のこと」とも云い、道元禪師は「正法眼蔵陀羅尼」の巻に「：所謂大陀羅尼は、人事これなり：」身近で言うと、人をもてなす行動・介護・お給仕／喫茶喫飯等々、相手を思いやる行動、佛様・御先祖様に心から礼拝する〳〵人事なり。「神通力」とは奇跡的な特別な事ではなく、衣食住・行住坐臥の浄心・親孝行・思いやりです。

②「大明呪」明鏡の智慧の働きのことで、澄んだ鏡の如く、公平に差別なく事実に対応して、自ら苦心して汗水流し、困難に涙しながらも人々を救済する慈悲行。

③「無上呪」お釈迦様の言葉は、他と比較にならないほど尊い。

④「無等等呪」ほかに比較するものが無い絶妙のお言葉。

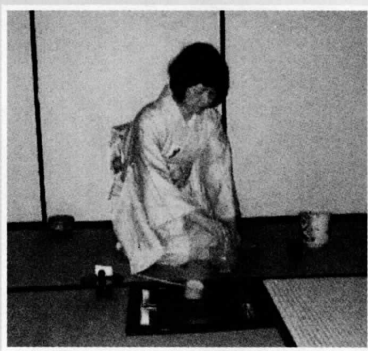
仏とは、物もたぬ心・さとりなり
われ仏とも思わぬなり。

仏は自らを忘れて
大愚になってゆく。

《愚とは、平等のことで、差別の無い 慈悲・智慧が豊かな人生・包容力》

生徒募集

茶道教室



裏千家 皆川 宗裕

季節の移ろいを体感し、豊かな日本文化と心遣いを
学びながら、共に一服のお茶をいただきます。
御足の悪い方でも椅子（立礼）で出来ます。
親子・お孫様と
ご一緒でもどうぞ



木曜・金曜

月 3 回 午前 10 時半～夜 随時
※曜日、時間はお相談に応じます。

入会金・月謝

一 般／入会金 7,000 円 月謝 7,000 円
小・中・高・大／入会金 4,500 円 月謝 4,500 円

三松寺 公益財団法人大和青少年文化研修道場

奈良市七条 1-26-10 電話 0742-44-3333
ホームページ <https://www.sanshoji.com/>